

月刊ドラゴンズの音訳の方法について話し合うペンライトのメンバー＝豊橋市東松山町の明生会館で



「月刊ドラゴンズ」音訳

豊橋市東松山町の点字図書館・明生会館で活動する音訳ボランティア団体「ペンライト」が、プロ野球中日ドラゴンズの情報誌「月刊ドラゴンズ」の音訳を始めた。二十年間音訳を続けた岩倉市の団体から引き継ぎ、視覚障害者のドラゴンズファンに情報を届ける。
(中山梓)

視覚障害のファンへ ずっと届けたい

よう」と引き受け、先月発売の五月号から引き続きいだ。メンバーにとって雑誌の音訳は初めて。一入で数カ月掛けて音訳した。大変だけど、新しいことにチャレンジする文芸書と違って、時間に追われながら数人で手分けしての作業。今月二十三日にあ

月刊ドラゴンズは、岩倉市の音訳ボランティア団体「あめんぼ」が二十年間音訳してきた。高齢化などを理由に継続が困難になり、振り分け、それぞれが引き継ぎを打診。ペンライトの中心メンバー久子さん(左)蒲郡市三谷町が「楽しんで待つている利用者がある。ぜひやります。」

岩倉市の音訳ボランティア団体「あめんぼ」が二十年間音訳してきた。高齢化などを理由に継続が困難になり、振り分け、それぞれが引き継ぎを打診。ペンライトの中心メンバー久子さん(左)蒲郡市三谷町が「楽しんで待つている利用者がある。ぜひやります。」

岩倉市の音訳ボランティア団体「あめんぼ」が二十年間音訳してきた。高齢化などを理由に継続が困難になり、振り分け、それぞれが引き継ぎを打診。ペンライトの中心メンバー久子さん(左)蒲郡市三谷町が「楽しんで待つている利用者がある。ぜひやります。」

岩倉のボランティア20年活動

豊橋「ペンライト」が継ぐ

岩倉市の音訳ボランティア団体「あめんぼ」が二十年間音訳してきた。高齢化などを理由に継続が困難になり、振り分け、それぞれが引き継ぎを打診。ペンライトの中心メンバー久子さん(左)蒲郡市三谷町が「楽しんで待つている利用者がある。ぜひやります。」